

水質の感覚的評価と浄化方策 第7回ワークショップ 議事録(案)

日時:平成 18 年 8 月 31 日(金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 9 時

場所:中部大学鶴舞キャンパス 610 講義室

参加者:石黒,栗田,近藤,武田,田中,富永,中島,原田,吉田,山田

議事

1. 第7回の議事録の確認が行われた.

2. 8月25日の堀川観測の概要の説明があった.

場所:東田幡橋,五条橋,日置橋,御陵橋

時間:6:00~19:00

水質観測・流速観測:1時間毎,表層0.5m,1.5m,2.5m...(1m毎) と 底から0.5m上

「におい」に関するアンケート(適宜)

「ゴミ」採取:6:00~12:00 と 12:00~19:00

観測データの共有に関する確認(観測生データは,必要と思われる方に配布する.)

においに関する資料を原田教授が,水質,流速,ゴミに関する資料を武田助教授が集計・整理し,そのデータをメンバーに配布する.

観測データの処理・分析を分担する.

「におい」の資料整理・処理は名城大学グループ(原田教授)が担当

「水質」「流速」「ゴミ」の資料整理・処理は中部大学グループ(武田助教授)が担当

今回の会議で,水質,流速,におい,ゴミに関して得られた結果を図化したものを提示する.

そこで,現状把握および今後の検討のための議論を行いたい.

3. 「ゴミ」に関する調査結果の整理

資料:堀川を浮いているゴミに関する考察(武田)

観測日のゴミの様子(上げ潮の方がゴミが多く(集積して)見えた.右岸側にゴミが多かった.)

から,中川運河ワンド部がゴミを溜め集積する機能を持ち,溜まったゴミが上げ潮のときに遡上してくるのではないかという仮説が出された.グループの中でも,中川運河ワンド部はゴミが集まる場所であるという意見が多かった.この点を調査することが確認された.

中川運河ワンド部の存在が,堀川においてゴミが長く漂う理由になる可能性もあり,網などの設置により,ここでゴミを溜めておいて回収することで,ゴミ浮遊の長期化を防止する対策になる可能性がある.

4. 中間発表に向けて

9月3日に行われる中間発表会の資料について議論した.

近藤氏:「なごや夏まつり」で使用したパネルのファイルを武田助教授まで送っていただく.

原田教授:「なごや夏まつり」での「におい」に関する調査結果を武田助教授まで送っていただく.

5. その他

(ア)社会実験として何ができるか?

(イ)最終的なアウトプットをどのように想定するか？

(ウ)今後の観測予定

「におい」マップ,「ゴミ」マップは作成したい.

9月24日に「におい」マップ作成のための現地調査を実施する.

東山ガーデンに船の依頼をする.武田助教授が担当

調査は,グループメンバーの鼻を頼りに行う.

現状把握にとどまらず,対策まで提案できれば良い.

6.第8回会議の日程調整

次回は,9月15日(金曜日)18:30~21:00に中部大学鶴舞キャンパス610講義室で行う.